

この夏、NPOが実施したイベント報告

三宅 隆・佐々木彰央

1. 吉田町小さな理科館

鶏の手羽先標本作り

吉田町の町立図書館の横にある「吉田町ちいさな理科館」。名前の通り、こじんまりした建物ですが、施設の中はいろいろと充実しており、いつも子供達で賑わっています。

NPOでは、ここ6年間に渡り、毎年、内容を変えてここで講座を行ってきました。

今年は、「鶏の手羽先骨格標本を作ろう」で、まず焼き鳥屋さんから購入した手羽先を、皆で美味しく味わい、残った骨を、丁寧に肉をはがし、薬剤で除肉した後、部位に沿って骨の名前を比べながら並べて完成です。2時間ほどで、無事完成しました。



完成した鶏の手羽先骨格標本

2. 富士山こどもの国

アニマルトレッキング

今年で2回目となる富士山こどもの国での講座「アニマルトレッキング」を8月19日に実施しました。本来はトラッキングですが、トレッキング気分でも動物の存在を感じてほしいというコンセプトから本名称にしました。こどもの国の「街」というエリア周辺で野生動物の糞や足跡、シカが泥浴びをする「ヌタバ」を観察し、その後、自動撮影カメラの映像を見てもらいました。さらに講座の途中ではシカやツキノワグマ、イノシシなどの骨格標本や毛皮、生きた野ネズミ「ヒメネズミ」を観察してもらいました。



野生動物の足跡や糞を探す

参加人数は午前午後合わせて約60名と大盛況でした。

3. ミュージアムで実施した夏のイベント

①アメリカザリガニの標本作り

日本各地の池や川でみられるアメリカザリガニは食用ガエルの餌として北アメリカから持ち込まれた外来種です。しかし、外来種だからと言って駆除するだけではなく教材として活用したいと考えたのが本講座のきっかけです。内容はアメリカザリガニが持ち込まれた経緯、体の構造、標本の作り方、世界のザリガニ科の仲間についてです。本講座は定員30名を締め切りとして募集しましたが、ありがたいことに102名からの応募があり、参加人数を増やしての開催となりました。参加者からは「ザリガニは顔



アメリカザリガニの標本作製にチャレンジ

から尿を出していたとは…驚いた」、「思ったよりも標本の作製が簡単」などの感想をいただきました。

②カブトムシを知ろう

まず、ミュージアム裏の自然観察路での甲虫採集です。数日前に仕掛けたバナナトラップを回収し、カブトムシやクワガタムシをゲット。その後、展望台にある、古しいたけ木を崩しての甲虫探し、その後、講堂に戻り、カブトムシの力くらべや、外国産の生きている巨大なカブトムシ・クワガタムシの説明や記念写真を撮りました。

実施した日が平日で、参加資格も小学校4, 5, 6年生に限ったので、予定していた人数には届きませんでした。参加者たちはいろいろな経験に満足した様子でした。



古木を壊し甲虫を探す

③夏休み自由研究相談会

子供たちにとっては、夏休みの大きな課題である自由研究。夏休み最後の整理に、生き物を対象に、NPOの昆虫や植物、地質などの分野の専門家14人が、質問や種類などの判別相談に協力する1日でした。しかし、事前の周知が不十分のため、このためにわざわざミュージアムへ来る人も少なく、相談は少なかったのですが、中には、たくさんの昆虫を展翅した、大きな箱を2つも持参して、名前を調べている家族もあり、来年に向けてより良い方法を考える必要性を感じました。



昆虫の名前を調べる

④静岡夜店市ブース出展協力

静岡市呉服町商店街で行われる「第55回静岡夏まつり夜店市」にミュージアムがブースを出すこととなり、NPOやサポーターへも協力要請がありました。テーマは「今話題の危険な生物展」ということで、ヒアリ、マダニ、ヤマカガシの実物標本の展示と説明をすることになりました。初日にSBSテレビの中継が入ったこともあって、ヒアリを見るために見物者が行列をなすほどでした。見た人は、一様に「ヒアリってこんなに小さいんだね!」という感想でした。延べで4000人くらい訪れたようで、標本の力と話題性は強いなという感想を持ちました。



ヒアリを見るために、ならぶ見物者